

[茶豆風味エダマメにおける作型毎の高品質化技術の確立]

高温期の施設栽培に適した茶豆風味品種の選定

榮森弘己・小坂井宏輔

(江戸川分場)

【要 約】 7月上旬播種の施設栽培において、「ゆかた娘、つきみ娘」は収量が70kg/a以上と多くなるが、「つきみ娘」は倒伏性もある。収量性と倒伏性の観点から「ゆかた娘、あじほこれ、神風香」が高温期の施設栽培においては有望である。

【目 的】

江東地域におけるエダマメ栽培では、食味が良い茶豆風味品種の生産が伸びている。しかし高温期の施設栽培では、近年の猛暑による高温障害などの発生が懸念されるが、本作型での試験例などはほとんどなく、知見も少ない。そこで本試験では複数の茶豆風味品種の高温期の施設栽培における生育特性を比較し、品種選定の基礎資料とする。

【方 法】

表1の10品種を供試した。2025年7月2日に128穴セルトレイ播種し、7月11日に白黒ダブルマルチを敷設したハウスに定植した。栽植密度は畝間70cm,株間20cm,条間35cm,2条植えとした。各品種10株×4反復とした。施肥は基肥でN-P₂O₅-K₂O=8-18-11kg/10aとした。ハウスはサイドと出入口など防虫ネットで被覆したハウスで試験を行い、7月下旬までは晴天時はハウス内を30%遮光で管理した。灌水は期間中開花後の8月上旬以降は7~10日間隔の頻度で行った。収穫調査は8月27日~9月11日まで適期の品種について行った。

【成果の概要】

1. 気温：開花期と推測される7月下旬~8月上旬のハウス内最高気温は最高39.1℃を記録した(図1)。8月上旬以降収穫期までの最高気温は最高36.2℃であった。収穫期間中の8月下旬以降の最高気温は最高38.1℃となった。
2. 草姿：草丈について、「つきみ娘」が93cmと最も高くなり、「夏風香」が59cmで最も低かった(表1)。その結果が莖長、節数と分枝数にも反映され、「つきみ娘」の莖長が44cmで最も長くなり、節数は8.8節、分枝数も10.6本でともに最も多かった。一方で「夏風香」の莖長は24cmで最も短くなり、分枝数も8.8本で最も少なかった。試験中の株の倒伏株率は、「湯あがり娘、つきみ娘」の割合が70%以上で他に比べ高かった。一方で、「味風香、あじほこれ、陽恵、ゆかた娘」はまったく倒伏がみられなかった。
3. 収量：可販収量は、「ゆかた娘、つきみ娘」が70kg/a以上と多くなり、「おつな姫」が53kg/aと最も少なかった(表1)。株あたり莢数は、「つきみ娘、あまおとめ、あじほこれ」が60以上と多かった(図2)。3~4粒莢率は「神風香、味風香」がともに約24%と高かった。試験中、ハウス内高温による受精不良などの高温障害はみられなかった。

【残された課題・成果の活用・留意点】

1. 試験期間中、8月中旬にハダニ類が一部発生したので、本作型では本種やコナジラミ類など微小害虫の発生に留意する。



図1 試験期間中のハウス内最高気温の推移

表1 施設栽培での7月上旬播種作型における草姿, 収量の品種比較

品種名	種苗 ^a 会社	早晩性	収穫日	草丈 (cm)	茎長 (cm)	節数 (節)	分枝数 (本)	可販収量 ^b (kg/a)	倒伏株 率(%)	総合 ^c 評価
神風香	ユ	極早生	8/27~9/3	72	30	7.1	9.1	65	5.0	○
味風香	ユ	早生	9/1~9/8	66	27	7.4	9.4	60	0.0	
あじほこれ	キ	早生	9/2~9/8	64	29	7.4	9.4	69	0.0	○
あまおとめ	ア	早生	9/2~9/8	72	33	7.3	9.6	56	32.5	
おつな姫	サ	早生	9/1~9/3	66	28	7.6	9.3	53	12.5	
陽恵	カ	早生	8/27~9/3	65	29	7.9	9.3	62	0.0	
湯あがり娘	カ	中早生	8/27~9/3	66	31	7.6	9.4	56	70.0	
夏風香	ユ	中早生~中生	9/1~9/8	59	24	7.2	8.8	54	15.0	
ゆかた娘	カ	中生	9/2~9/11	70	29	7.7	9.9	74	0.0	○
つきみ娘	カ	中晩生	9/5~9/11	93	44	8.8	10.6	72	72.5	

a) ユ (雪印種苗), キ (きりはらのタネ), ア (アサヒ農園), サ (サカタのタネ), カ (カネコ種苗), b) 2粒莢以上の莢収量を示す。なお植栽密度は1aあたり720本で計算している。c) 可販収量が多く、倒伏株率がゼロもしくは低率の品種を高く評価した。

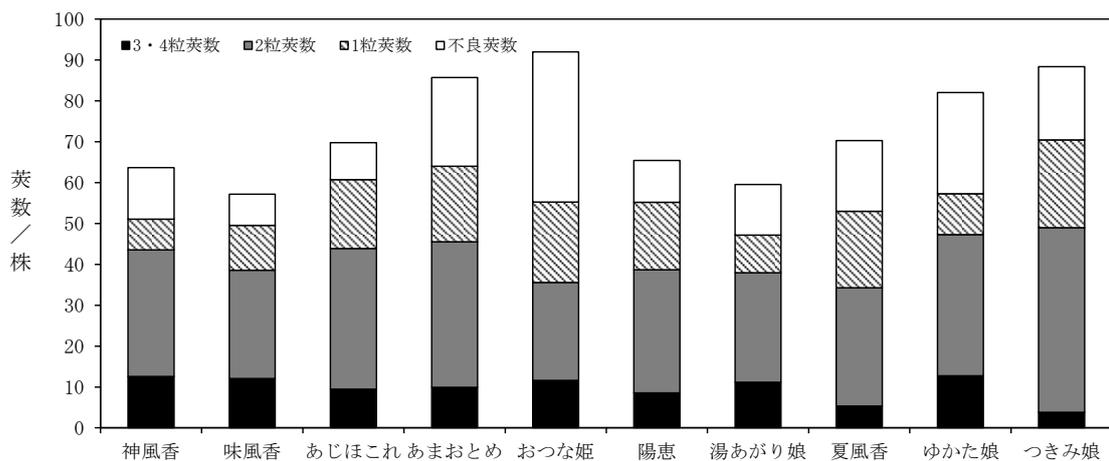


図2 施設栽培での7月上旬播種作型における莢数の品種比較

不良莢は莢の厚さが7mm未満であったものとした。